



「すごい会議」で投じた一石、
良い波紋が勝手に広がっています。

税理士法人三部会計事務所 所長 三部 吉久 氏

税理士法人三部会計事務所

開業：1965年 税理士法人設立：2003年

事業内容：税務・会計・人事労務・経営支援・FP

すごい会議を自身の行動のきっかけに

Q すごい会議をどのようにお知りになりましたか？

もともと「すごい会議」の本を買って読んでいたので存在は知っていました。その時に、セミナーをやっ
てもらえないかなあと思ってはいましたが、敷居が高いというか、結局実現には至りませんでした。



それでもずっとセミナーの企画は頭にありまして、そんな時、会計
事務所向けのセミナーが開催される事を聞き、これは！と参加を決
めました。そこで改めて「これば面白いなあ」と思い、すぐに講師
の富永さんに連絡しました。

Q すごい会議導入の決め手は？

富永さんの“押し”です(笑)。書籍の「すごい会議」を読んで、良
い仕組みだという事は分かっていましたが、本を読んだだけではなか
なか行動に移せませんでした。セミナーに参加し、個別に富永さんに
連絡をしたところから行動が始まったんですね。うちの会社も若い人
たちが入り人数も増えて、組織経営について考えていた時でしたの
で、自分自身が行動するためにも良いきっかけになると感じました。

すごい会議の思わぬ効果、 参加メンバー以外にも派生

Q すごい会議導入前の御社はどのような状況でしたか？

もともと私の父が創業者なのですが、意思決定は全て経営者、社員もそれが当たり前。といういわゆるワンマン体質・風土が根付いていました。会計事務所というところは特に、“先生”という立場の人間が「こうだ」と言って、他の社員は何も言わずただその指示に従う、といった体質のところはまだまだ多いのではないのでしょうか。経営者自身も保守的で受け身の人が多いと思います。

時代も変わり、自分の代になり、若い社員とも対話を持って経営する方針へ変革している途中です。

自由に発言したり提案したりできない環境では、せっかく優秀な社員達がいるのに勿体無いですよ。



Q すごい会議導入後、どのような変化がありましたか？

会議には、部長クラスのメンバーとお客様の経営に密接した事業部のメンバー、若いメンバーも参加しました。若いメンバーはさすがに理解も早し反応も早い。受け入れは非常に早かったですね。最初の内、特に若いメンバーは遠慮があり大人しかったですが、すごい会議は意見を出させる仕組みになっていますので、会議を進めていくうちにメンバーの発言力がみるみる変わっていくのが目に見えてわかりました。意見を出してみても、それに対し他のメンバーが反応したり同意したりするのを繰り返していく事で、それが自信につながっていったんだと思います。とても嬉しい変化です。



今回すごい会議を実施し、会議以外の場でも変わってきたんですよ。これが面白いところなんです、朝礼などで、「これをやりましょう！」と発表したり、会議のテーマ以外でも自主的に考えて提案するようになったんです。

メインの会議に出していないメンバーも自主的に提案するようになり、派生しているんですよ、これには驚きました。しかもこれが良い提案をするんですよ。私自身も考え付かなかったような「そうか！それは良いね」というような。

今までは皆、問題に気付いていたり考えたりしていても、抑えたり遠慮したりしていたんだと思います。こちらも発言の機会を与えていなかったのかも知れません。発言する文化が無かった。すごい会議を導入した事で起こった変化は、驚きとともに嬉しいものでした。

Q すごい会議のどんな点が“すごい”とお感じになりましたか？

全員に一斉に意見を出させる仕組みが非常に良いですね。そして一番面白いのが、後ろ向きな見方や発言が無くなるっていうところ、何よりすごいと思います。付箋に書くなり、言葉にして出すなり、やはり自分の意見を出すというのが非常に大事。その行為が、問題点でさえ前向きな提起となるんですね。出す事で、皆で共有し、受け入れ、考える。一人の意見が全員の成長につながる。これは面白い仕組みですね。アウトプットさせる事は人を成長させる、という事が分かりましたね。

また、上からいくら言ってもなかなか入っていかないものが、言わせて考えさせる事で脳に浸み込むというか、気付いたら自分たちのものになっている。前向きな発言がどんどん浸透していき、相乗効果を生みますね。

すごい会議って、人の心理を深く読んでいるな、と。自分たちに考えさせて自分たちで気付かせる仕組み。仕組みに乗ると後は勝手に回ってゆく、自然とそういう空気になりますね。

歌舞伎役者のような威圧感（笑） 良い緊張感であっという間の10時間

Q 富永コーチはどのようにお感じになりましたか？

最初お会いした時は、何と言いますか威圧感？濃く厚い雰囲気（笑）に圧倒されましたね。

大きな方ですし、会議に参加したメンバーから、会議の後で「富永さんはハーフですか？」と聞かれた程日本人離れした風貌と雰囲気。

舞台役者さんか歌舞伎役者さんのような、あの堂々たる雰囲気で会議を引っ張ってくれましたので、会議に良い緊張感が生まれました。

会議中も前から引っ張られたり後ろからぐぐっと押されたり。最初の会議は10時間だったのですが、10時間の会議って、もっとぐったりすると思っていたんです。意外にあっという間に進みましたね。

前向きな会議ってこうなんだ！と思いました。



すごい会議が人材育成に。 「共育ネットワーク」の拡大へ



Q 今後の御社の方向性や期待していることをお聞かせ下さい。

今回すごい会議を実施して、社員の皆が考えていた事や感じていたことが表に出てくるようになりました。これまでそれを十分に引き出せていなかったという自身への反省と、嬉しい驚きがありました。これだけ考えていてくれるなら、任せてみようか。という気持ちにさせてくれました。

現在も目標に向けて、色々な案が出てきています。直ぐに数値に結びつくものでは無いですが、良い結果が出てくる確信が持っています。着実に進んでいる感じ、これが良いですね。

すごい会議で投じた一石が、会議メンバー以外にも良い波紋を広げています。結果的に人材育成にもつながっています。社員一人一人の意識のレベルが向上する事で、対話し、学ぶ。後は自転していけるような仕組みを作りたいと考えています。せつかく自転し始めたものを止めないように、きちんとした流れを作るのが私の仕事ですね。

「すごい会議」も含めてこうして自分たちが実践しているような経営の在り方や成長を共有し、ネットワークを広げてゆきたいですね。共に育て合い、成長してゆこうという「共育ネットワーク」です。社内はもちろん、弊社とお客様、お客様とその先のお客様、皆が共に育て合える、そういう価値観を共有できるネットワークを広げてゆきたいです。